



第32号

有功会ながの

発行
事務局

長野県赤十字有功会

日本赤十字社長野県支部

〒380-0836 長野市南県町1074

TEL 026-226-2073 FAX 026-223-4181

URL <https://www.jrc.or.jp/chapter/nagano/>

長野県赤十字有功会

会長 浅井 隆彦



会員の皆さまには、日ごろから当会の活動に深いご理解と温かいご協力を賜り、心から御礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、年始から能登半島地震災害や羽田空港における航空機の衝突事故など、目を覆うばかりの光景が報道されましたが、パリオリンピック・パラリンピック等でのアスリートの活躍、あるいは、ノーベル平和賞の受賞など、明るい話題も多かった一年であったように思います。

また、当会にとっては、結成から30周年を迎えた節目の年でありましたので、研修旅行については、日本赤十字社の初代社長佐野常民公と副社長大給恒公の墓所にお参りするとともに、日本赤十字社本社に清家篤社長を訪問する等の行程で赤十字を学びました。研修旅行の全容は、中野武さんの旅行記にてご覧いただけますが、私からは、清家社長との有意義な懇談の中で印象に残ったお話を

伝えします。

日本赤十字社の活動の財政基盤は寄付金ですが、清家社長曰く『日赤への寄付には、困難な状況にある人々を助けたいという温かい気持ち』が一緒にあると思っています。ですので、単なるマネーフロー（お金の流れ）ではなく、『マインドフロー（心の流れ）』であると思っています。』と、経済学と寄付行為を関連付けて話してくださいました。また、健康長寿に触れ、その秘訣として、①オプティミズム（楽観主義）、②スモールハピネス（小さな幸せを感じる）、③アルトウリズム（利他性）が重要であることを紹介くださいました。長寿研究に係る長年にわたる調査では、特に利他性の強い人が長寿の傾向にあることが分かっています。そうなんです。そして、利他性を持つことは、個人のみならず、社会全体の健全性や幸福、いわゆるウェルビーイングにもつながることも話してくださいました。

現代社会は、多様化・複雑化し

ている中で様々な問題を抱えています。多くの人々に共通する問題は、自然災害ではないかと思えます。国内の各地では気候変動に起因する豪雨・豪雪災害のほか、地震災害も頻発しております。また、海外では、長期化・深刻化する紛争や内戦もあり、未曾有の人道危機が繰り返されています。このような事態に対し、常に赤十字が人道支援活動に取り組んできたことは、周知の事実であります。

今年は阪神・淡路大震災から30年を迎えます。犠牲となられた方々に鎮魂の祈りをささげるとともに、復興の歩みを進めた皆さまに敬意を表するところです。これからも、赤十字が「人間のいのちと健康、尊厳を守る」使命を果たすことができるよう、あらためて当会として赤十字活動への支援の輪を広げていきたいと考えておりますので、引き続き、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

結びに、今年一年が皆さまにとりまして、健やかで実り多き年となりますようお祈り申し上げます。御挨拶いたします。

令和6年度有功会総会の開催

記

令和6年5月28日、第31回長野県赤十字有功会総会が開催されました。

第1部総会では、浅井会長の挨拶に続き、議事では第1号議案「令和5年度事業報告及び収支決算」、第2号議案「令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)」、第3号議案「役員改選」についてそれぞれ審議され、いずれも原案どおり承認されました。令和6年度新役員は別記のとおりです。その後の表彰伝達では、関副支部長から紺綬褒章、厚生労働大臣感謝状、社資功労感謝状及び赤十字有功章の伝達が行われました。

第3部講演では、日本赤十字社長野県支部徳武組織振興課長より、能登半島地震にかかる救護活動報告の後、日本赤十字社国際部企画課榎村美穂氏より「日本赤十字社の国際活動について」と題してウクライナ及びイスラエル・ガザ地区での人道危機への赤十字の対応を中心にご講演いただきました。最後に「赤十字この1年令和5年度」のDVD上映を行いました。

長野県赤十字有功会役員(敬称略)

世話人 小根山 克雄(長野市)
監事 町田 邦男(上水内郡)



受章された方々

令和6年全国赤十字大会への参加



全国赤十字大会(明治神宮会館)

日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、同名誉副総裁の秋篠宮皇嗣妃殿下、常陸宮妃華子殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下のご臨席を仰ぎ、令和6年全国赤十字大会が5月15日、東京・渋谷の明治神宮会館で開催され、全国から赤十字社員やボランティアの代表など約1,600人が参加、当会からも2名の会員が参加しました。

毎年5月の赤十字運動月間に開催されているこの大会は、赤十字事業の発展に尽くした功労者を表彰し、日頃の活動に感謝する場であり、今年度は本県の藤原忠彦様（元全国町村会長）を始め、全国から個人・法人の代表13名・社に金色・銀色有功章が皇后陛下から授与されました。また、清家篤社長は式典冒頭で、令和6年1月1日に発生した能登半島地震における全国からの寄付や赤十字ボランティアの協力で感謝の意を表明するとともに、人道危機が絶えない世界情勢においても赤十字運動を推進する決意を語りました。

実践活動報告では、金沢星稜大学学生赤十字奉仕団の大久保百茄さんからは令和6年能登半島地震における奉仕団の取り組みを、大阪赤十字病院看護部看護係長・川瀬佐知子さんからはイスラエル・ガザにおける医療支援について、紛争前の取り組みと紛争後の現状について発表がありました。2人の報告に、皇后陛下ならびに各妃殿下は熱心に耳を傾けておられました。

令和6年度 長野県有功会研修旅行のご報告

東京・赤十字



ゆかりの地
めぐり2日間

中野 武

昨年は九州地方に旅し日本赤十字社の前身博愛社、その誕生の契機となった西南戦争の戦跡、佐賀県の佐野常民記念館、熊本県の田原坂古戦場、熊本城を訪問。今回は11月28日から東京に旅行しました。テーマは「日本赤十字社訪問・ゆかりの地めぐり2日間」です。

の前身博愛社の創始者、日赤初代社長佐野常民公のお墓参り。佐野常民は1822年佐賀に誕生。1867年参加したパリ万博で赤

十字を知り、翌年の西南戦争で敵味方区別なく傷病者救護にあたる博愛社の設立に奔走。1887年ジュネーブ条約調印で誕生した日

第1日目は東京駅

に集合して観光バスに乗車。長野県赤十字有功会浅井会長のご挨拶をいただきました。まず訪れたのは青山霊園。日本赤十字社（以下日赤



佐野常民公 墓所（青山霊園）

赤の運営に尽力。没年は1902年12月7日79歳。常民は適塾に学び蘭方医として活躍、のち藩命で佐賀藩の海軍力整備に注力。維新後は元老院議員、枢密顧問官を務め、日赤はじめ多くの公的機関や団体の組織運営に参画。墓参では佐賀七賢に列せられた先人の功績を大いに偲びました。

午後は日赤本社訪問です。本社総務企画部津田参事監および救



赤十字情報プラザ

護・福祉部中村防災業務課長、長野県支部伊藤事務局長がお出迎え。入構許可証を頂き、1階の赤十字プラザで国際赤十字、そして我が国の赤十字運動の展示を見学。そのあと7階に清家篤社長を訪問しました。清家社長はご存知のように慶應義塾長を務められた経済学者です。まず津田氏から赤十字の現況、2025

年大阪万博での国際赤十字・赤新月運動館について説明を受けました。パリ万博の赤十字パビリオンで、佐野常民の赤十字活動との出会いがあり、今回の大阪万博でも赤十字活動を広く世界に発信されるとのこと。懇談の機会もあり円形テーブルに社長を囲む形で着座し身近でお話を伺うことができました。令和6年前半に相次いだ能登半島災害への長野県支部と各施



日本赤十字社 清家社長（本社）



国会議事堂

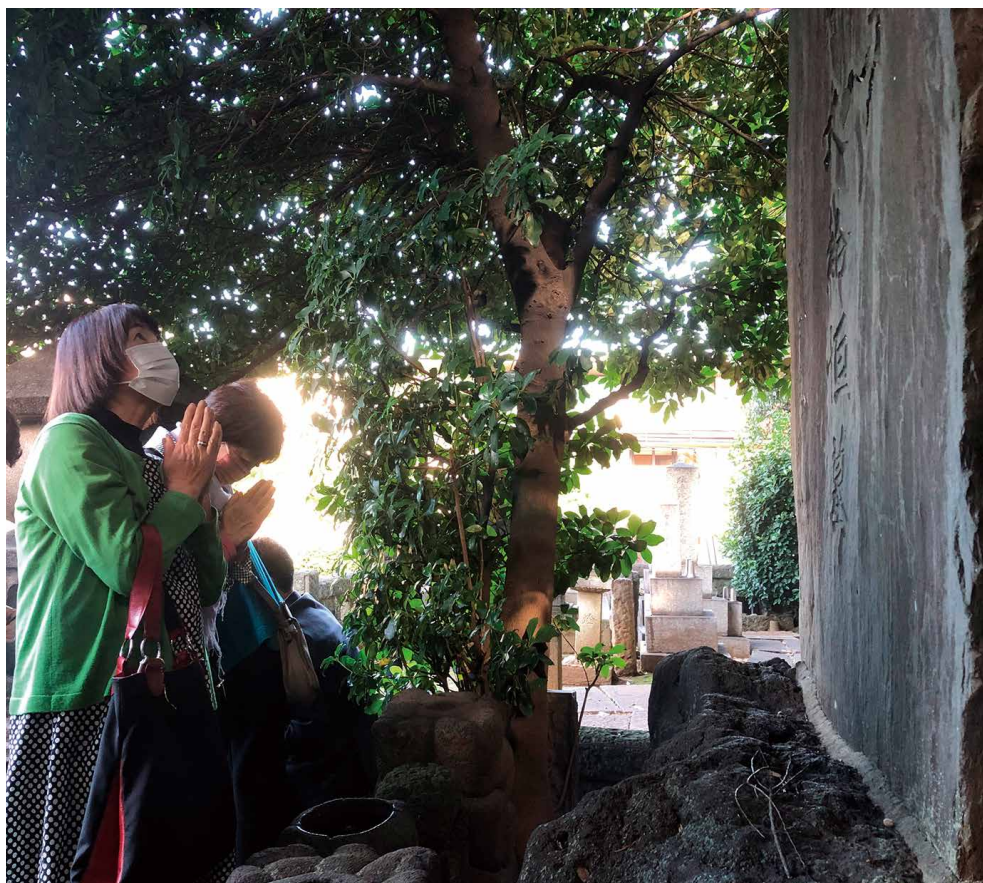
設からの援助活動、長野県民からのご支援に感謝のお言葉を戴きました。参加者の質問に被災地避難環境改善、若い世代への赤十字の広報、青少年赤十字活動の取り組み、さらに広く、善意の循環（マ

ネーフローではなくマインドフロー、利他の心の大切さなどを熱く語られたのが印象的でした。最後は社長を囲んで集合写真を撮影し本社を後にしました。

2日目は国会議事堂を見学。奇

しくも29日は第216回臨時国会初日で国会周辺は厳重な警戒体制下にありました。衆議院を見学したあと皆さんと国会正面で写真撮影。国会前庭には全国47都道府県の木が南北順に植えられています。長野県の白樺は暑かった夏のせい

か元気がないのが気になりました。そして国会見学のあとは大給恒の墓参。ご存知のように佐久龍岡城主で信州につながりある方です。博愛社と日赤誕生の功労者で、佐野常民が日赤の父、大給恒は日赤の母と呼ばれます。墓所は渋



大給恒公墓所（祥雲寺）

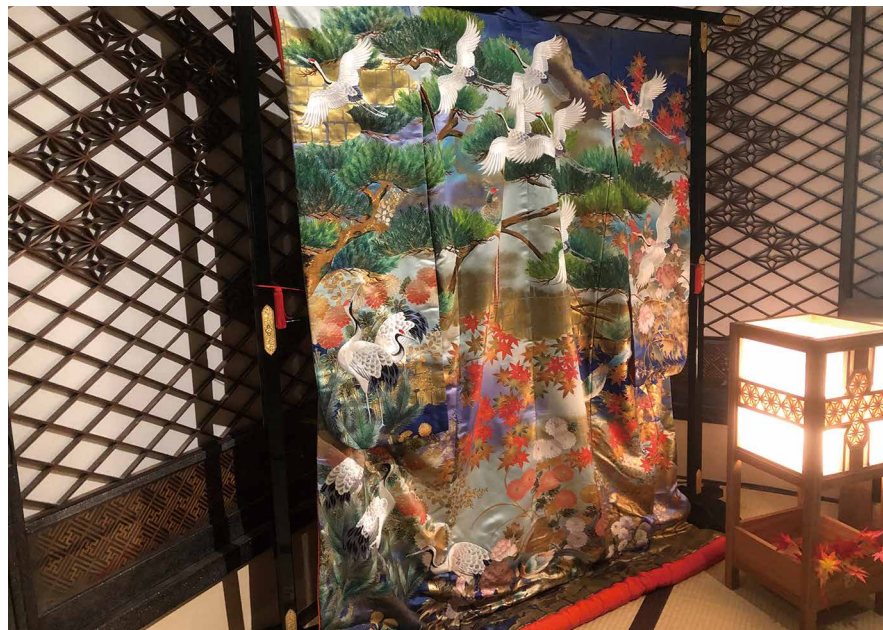
谷区広尾の祥雲寺墓地。祥雲寺の臨濟宗瑞泉山香林院は1665年三河大給藩松平乗次が開基。徳川家の縁戚関係にある大名の加護で発展。この付近は空襲の被害はなく古い時代の墓石が残されています。祥雲寺はまた信濃飯田藩堀家の菩提寺。渋谷区指定有形文化財を示す説明銘板には「香林院と大給恒の墓」とあり、大きな墓碑には「枢密院顧問官 正二位勲一等



迎賓館赤坂離宮

伯爵大給恒墓 明治四十二年一月六日薨」と刻まれています。竜(龍)岡城は江戸時代最後の城郭建築で函館五稜郭と同じ西洋様式の築城。松平は維新後に大給と改め新政府に出仕、要職を務め明治11年に賞勲局副総裁、28年総裁。日本の勲章制度の礎を作り日本古来の伝統に基づく勲章デザインを生み出したことでも知られます。明治10年佐野常民と共に日赤の前身博愛社を創設し副総裁。以上当該銘板の抜粋要約です。午後は迎賓館赤坂離宮を見学。外国の国家元首など賓客をお迎えし外交活動や国際会議を開催する内閣府施設で、2016年から一般公開の機会が設けられています。明治時代後半に東宮御所として建てられたネオバロック様式建築は、完成当時の日本の建築、美術、工

芸の総力を挙げた本格的近代洋風建築の到達点とされます。幾多の変遷を経て昭和49年に現在の形となり平成18年、20年の大規模改修をへて国宝に指定。現在も天上絵画の修復は続けられており、私たちは朝日の間、彩鸞の間、羽衣の間、花鳥の間などを見学。絵画、陶器、家具、暖炉、シャンデリア、緞通、カーテンなどの調度、鏤められた七宝、螺鈿、紋章金細工の素晴らしさに感銘しました。最後になります



百段階段 企画展 (ホテル雅叙園東京)

を堪能しました。「東京都の木」イチヨウの紅葉が真っ盛り。晩秋から初冬に移り行く都会の景色を車窓から楽しみました。このような有意義で楽しい旅行に参加された有功会各位、企画された支部職員、そして案内いただいた添乗員氏と観光バススタッフに心から感謝いたします。

赤十字事業への協力

令和6年度は長野県支部の要請に応え、長野県赤十字歴史資料館のシロアリ防除施工及び改修工事にかかる費用の一部を助成しました。床下部分には複数のシロアリ被害が確認されており、被害箇所へ防除薬剤を直接注入したうえ、付近の木材及び土壌にも薬剤を散布しました。

また、改修工事については、損傷の激しい外壁部分について、令和7年3月に行われる予定です。長野県赤十字歴史資料館では今後も歴史ある赤十字資料を展示・公開し、これまでの先人の努力と功績をより多くの皆さまに伝えてまいります。



シロアリによる被害が見受けられた箇所



防除施工の様子



あなたの思いを赤十字に 遺贈・相続財産寄付をお考えの皆さまへ

近年、「自分で築いた財産の一部を寄付したい」、「故人の遺産を社会のために役立てたい」というお声を多くいただいております。相談される方のきっかけは様々ですが、ひとり暮らしで身寄りや相続先のない方が増えていることもあり、財産を寄付することへの関心が高まっています。

「遺言等によるご寄付（遺贈）」や相続財産のご寄付などの尊いご意志にこたえるため、日本赤十字社長野県支部では、ご寄付の方法や税制上の優遇措置などを掲載したパンフレットをご用意しております。

遺 贈：遺言によって財産の全部または一部を団体など第三者に与えること

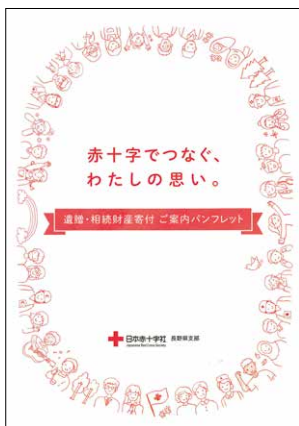
相続財産寄付：相続により取得した財産の全部または一部を寄付すること

詳細については、左記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

日本赤十字社長野県支部 組織振興課

電話 0269-219-2502



遺贈・相続財産寄付
ご案内パンフレット



WEB広告バナー
(日本赤十字社長野県支部
ホームページ掲載)

**令和6年度有功会総会において
受章された方々**
(敬称略・五十音順)**紺綬褒章**

個人

吉岡二郎※

厚生労働大臣感謝状

個人

池田正彦 小古井豊※

山田祐司

社資功労感謝状

個人

小口邦彦※ 唐澤郁夫

北島正悟 小古井豊※

後藤克巳 白鳥郁夫

塚田次郎※ 中野武※

西澤喜代子※ 西村宇哲

納富廣幸 東出隆雄

山田祐司 吉岡二郎※

法人・団体

株式会社青木鐵工所

飯島建設株式会社※

株式会社栄建※

株式会社エィワ機工※

川上陸送株式会社

有限会社春原工業所

セイコーエプソン株式会社

善光寺大勧進

金色有功章

個人

池田正彦

金児猛夫

坂本芳子

清水啓二

袖山治嗣

戸塚信之

東野邦俊

柳澤一向

山田高久

井原信麿

釜田秀明

柴田敬一郎※

清水深※

土田早苗

西正夫

南哲夫

山上正視

山田祐司

法人・団体

安保塗装株式会社

株式会社 Nejilaw

株式会社宮本工業所

銀色有功章

個人

荒井博文

石井博幸

小岩國雄

家山佳之

市瀬キミ※

小林悦子※

坂本達春 柴田房夫※
豊田英子 中島翔也
藤平龍彦 穂刈源夫
峯村朝子 若林貞子※

法人・団体

株式会社一球

株式会社イマイ企画

株式会社和美グループ

有限会社きりはら心斎館

株式会社グローバル企画設計

株式会社ケアネット

有限会社千野自動車整備工場

株式会社電弘

長電建設株式会社

長野信用金庫本店営業部※

株式会社八十二銀行※

財団法人北斎館

メイケイ電設

信光精密株式会社

※当会員

新会員の紹介
(敬称略・五十音順)

(敬称略・五十音順)

飯島建設株式会社

信越放送株式会社

株式会社電算

株式会社守谷商会

吉岡二郎

あとがき

原稿をお寄せいただきました皆さまのご協力により第32号を発刊する運びとなりました。誠にありがとうございました。

昨年は、世相を表す漢字に「金」が選ばれました。世の中の主な出来事、社会動向に就いて選ばれた文字であり、佐渡島の金山の世界文化遺産登録や新紙幣の発行、夏季五輪パリ大会での金メダル20個獲得といった喜ばしい出来事に胸を躍らせた一方、政治の裏金問題や高額報酬を求めた闇バイトによる事件、止まらない物価高騰等、世間を騒がせた数々のニュースが見受けられ、「金(キン)」の光のイメージと「金(かね)」の影のイメージの両面が記憶に残る一年となりました。

本年も、会員の増強をはじめ赤十字事業への更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

会員の皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

(有功会事務局)